

# 都市と緑が調和する一体的な市街地の形成

## 計画概要

◆計画期間 平成29年度～令和3年度

◆交付対象 豊田市

## ◆計画の目標

### 【賑わいと魅力ある都心づくり】

・豊田市中心市街地活性化基本計画に位置付けられている区域において、賑わいの創出、安全・安心・快適な歩行空間の確保及び交通の円滑化を図る。

### 【鉄道駅などを中心としたコンパクトシティの実現】

・合併を重ね広大な市域と分散した市街地を抱える課題を踏まえ、地域ごとの課題や特性に応じてた取組みを総合的、集中的に進めることで、活力あるまちづくりの実現を目指す。  
・鉄道を連続的に立体交差化することにより、複数の踏切を除去し、交通渋滞の緩和による円滑な道路ネットワークの形成と踏切事故の解消、歩行者空間の確保による都市交通の安全性の向上を図る。  
・主要幹線道路としての交通の分散化、円滑化を図り、生活道路から通過交通を排除することにより、安全で快適なまちづくりによる良好な市街地形成を図る。

### 【市街地における緑の拠点の確保】

・地域拠点として市民が身近に感じられる公園整備を行うと共に、グリーンインフラ事業により、地域交流活発化、緑化の推進、雨水浸透機能向上、子育て環境の向上、公園緑地の利用満足度の向上、地域の魅力向上を図る。  
・緑の拠点である都市公園の継続的な機能維持の為、「豊田市中央公園施設長寿命化計画」に基づき公園施設の改築を実施し、適切な管理による安全・安心の確保や公園施設に係るトータルコストの低減を図る。

# 都市と緑が調和する一体的な市街地の形成

## 計画概要

### ◆計画の成果目標（定量的指標）

指標①：中心市街地の歩行者交通量の増加

現況値（H29）78,232人／日 ⇒ 目標値（R3）80,266人／日

指標②：区画整理区域内の居住人口の増加

現況値（H29）815人 ⇒ 目標値（R3）2,381人

指標③：公園施設長寿命化計画に基づき、更新が必要とされる公園施設の更新率

現況値（H29）0% ⇒ 目標値（H30）100%

指標④：駅アクセス道路の歩道設置率

現況値（H29）0% ⇒ 目標値（R8）100%

指標⑤：生活道路に流入する通過交通を削減

現況値（H29）100% ⇒ 目標値（R10）現況値の70%削減

指標⑥：市民意識調査において、「公園が身近にある」と回答した人の平均値

現況値（H29）4.56 ⇒ 目標値（R8）4.60

## 評価内容

### ◆交付対象事業の進捗状況【事業数ベース】

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 基幹事業 (全15事業)	5,713百万円 (5,713百万円)	市街地再開発事業、土地区画整理事業、都市再生整備計画事業、暮らし・賑わい再生事業を実施し、概ね計画通りの進捗となつた。	100%
B 関連社会資本整備事業 (全1事業)	――	――	――
C 効果促進事業 (全1事業)	――	――	――
合 計	5,713百万円 (5,713百万円)		100%

※事業費は交付対象事業費の実績額。 () 内は整備計画最終変更時の交付対象事業費

※進捗率 (%) は各事業の計画に対する実施割合（事業費ベース）

## 評価内容

### ◆定量的指標の達成状況

#### 指標① 中心市街地の歩行者交通量の増加

当初現況値	78,232人/日	目標値と実績値に差が出た要因	当該歩行者道整備により、駅周辺の安全・安心な歩行空間の確保と来街者の回遊性の向上につながるとともに、再開発ビル（商業業務棟・高齢者棟・住居棟）の整備により、利便性も向上し、歩行者交通量が順調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中心市街地への来訪者数の大幅な減少などの影響により、最終目標値を下回る結果となった。
最終目標値	80,266人/日		
最終実績値	78,832人/日		

#### 指標② 区画整理区域内の居住人口の増加

当初現況値	815人	目標値と実績値に差が出た要因	寺部地区、平戸橋地区、四郷地区の実施により、適切な都市基盤整備と公共施設の総合的な整備を進め、快適で良好な居住環境が実現したが、事業完了直後につき、一部換地の未利用により計画戸数から算出する人口に満たない状況である。
最終目標値	2,381人		
最終実績値	1,942人		

#### 指標③ 公園施設長寿命化計画に基づき、更新が必要とされる公園施設の更新率

当初現況値	0 %	目標値と実績値に差が出た要因	「豊田市中央公園施設長寿命化計画」に基づいた公園施設の更新を行ったことにより、公園施設に係る長期的な維持管理コストの低減や公園の安全・安心を確保することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

## 評価内容

### ◆定量的指標の達成状況

#### 指標④ 駅アクセス道路の歩道設置率

当初現況値	0%	
最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因
最終実績値	—	名鉄三河線若林駅付近連続立体交差事業の関連事業であり、仮線用地として使用後、高架切替後に道路整備を行う予定であるため事業としては未完了である。令和7年度の高架切替後、道路整備を開始し予定であり、事業効果については事業完了後に評価を行う。

#### 指標⑤ 生活道路に流入する通過交通を削減

当初現況値	100%	
最終目標値	70%	目標値と実績値に差が出た要因
最終実績値	—	本事業の実施により、主要幹線道路としての交通の分散化、円滑化を図り、安全で快適なまちづくりによる良好な市街地形成を図る。現在は用地取得中であり、事業の効果については事業完了後に評価を行う。

#### 指標⑥ 市民意識調査において、「公園が身边にある」と回答した人の平均値

当初現況値	4.56	
最終目標値	4.60	目標値と実績値に差が出た要因
最終実績値	—	地域拠点として市民が身边に感じられる公園整備を行うことにより、地区住民や来訪者のくつろぎ・憩いの場の提供を行うことができた。なお、事業の全体計画期間は令和3年から令和9年であるため、事業の効果については令和9年以降に評価を行う予定である。

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況①

#### ■関連する成果目標（定量的指標）

指標①：中心市街地の歩行者交通量の増加

現況値（H29）78,232人／日 ⇒ 目標値（R3）80,266人／日

#### 【目標達成に資する事業】

- ・市道豊田市駅東歩行者道2号線外1路線整備事業
- ・豊田市駅前通り北地区市街地再開発((都)昭和町線)

#### 市道豊田市駅東歩行者道2号線外1路線整備事業



整備前



整備後

#### 豊田市駅前通り北地区市街地再開発((都)昭和町線)



整備後



## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況①

#### ■事業効果

- 当該区間の整備を市街地再開発事業と合わせて実施することにより、交通結節機能の強化及び快適な歩行者空間を確保するとともに、中心市街地の活力とにぎわいの創出を図ったが、新型コロナウィルス感染症の拡大により、人流抑制や在宅勤務が増加し、効果の発現が限定的となつた。

#### ■目標指標以外の事業効果（補完指標）

##### ①豊田都心地区内の居住人口

※挙母地区の4月1日現在の居住人口

130,597人 ⇒ 132,658人  
(H27年) (R4年)

##### ②豊田都心地区内の鉄道利用者数

※豊田市駅、新豊田駅の乗降客数の合計

46,514人 ⇒ 33,339人  
(H27年度) (R3年度)

##### ③都心に賑わいを感じる割合

※第20回、23回市民意識調査結果より

25.0% ⇒ 26.9%  
(H27年度) (R3年度)



都心地区の賑わいの様子

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況②

#### ■関連する成果目標（定量的指標）

指標②：区画整理区域内の居住人口の増加

現況値（H29）815人 ⇒ 目標値（R3）2,381人

#### 【目標達成に資する事業】

- ・豊田寺部都市再生区画整理事業
- ・四郷西山線ほか1路線
- ・豊田平戸橋地区（区6-1号線外）
- ・豊田寺部地区（（都）豊田則定線外）

豊田寺部都市再生区画整理事業



整備前



整備後

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況②

#### ■事業効果

- ・平戸橋土地区画整理事業により、地区のほぼ中心部で交差する（都）豊田北バイパスと（都）平戸橋土橋線の影響による高低差に対し、地区全体を盛土することで、排水対策や既存コミュニティの分断対策を行った。
- ・四郷西山線外1路線に電線共同溝を整備することにより、緊急輸送道路と駅及び消防施設の間において、災害時の安全な通行を確保することを目的として実施した。事業の効果は安全・円滑な交通の確保及び良好な景観形成であり、当該道路の交通量の増加により安全・円滑な交通の状況を評価する。

#### ■目標指標以外の事業効果（補完指標）

市民意識調査において、以下の問い合わせに対する満足していると回答をした割合

※第22回、23回市民意識調査結果より

①商業地に魅力と感じている

8.6% ⇒ 11.1%

②快適な住環境が整備されている

3.5% ⇒ 4.1%

市道四郷西山線

(整備前：H27.7調査) (整備後：R4.3調査)  
5,471台/平日12h(2車線) ⇒ 6,471台/平日 12h(2車線)



## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況③

#### ■関連する成果目標（定量的指標）

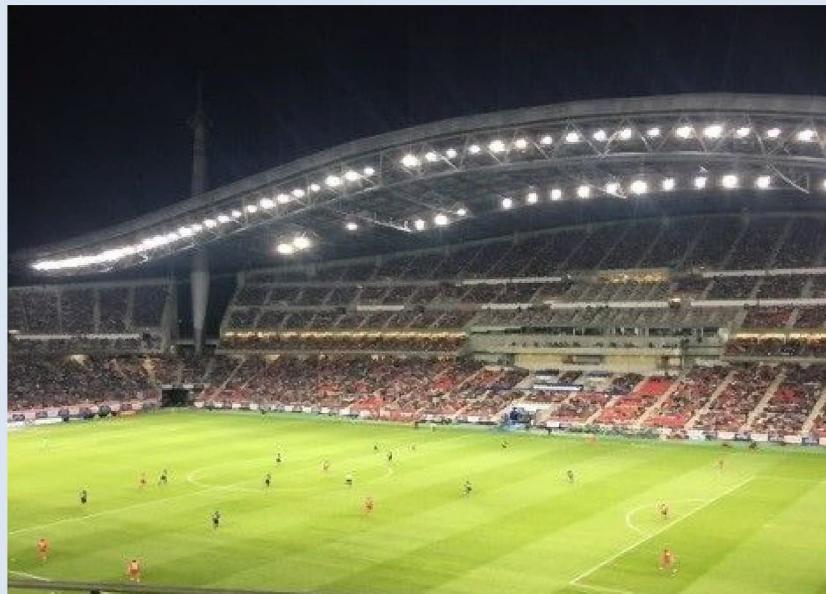
指標③：公園施設長寿命化計画に基づき、更新が必要とされる公園施設の更新率  
現況値（H29） 0 % ⇒ 目標値（H30） 100%

#### 【目標達成に資する事業】

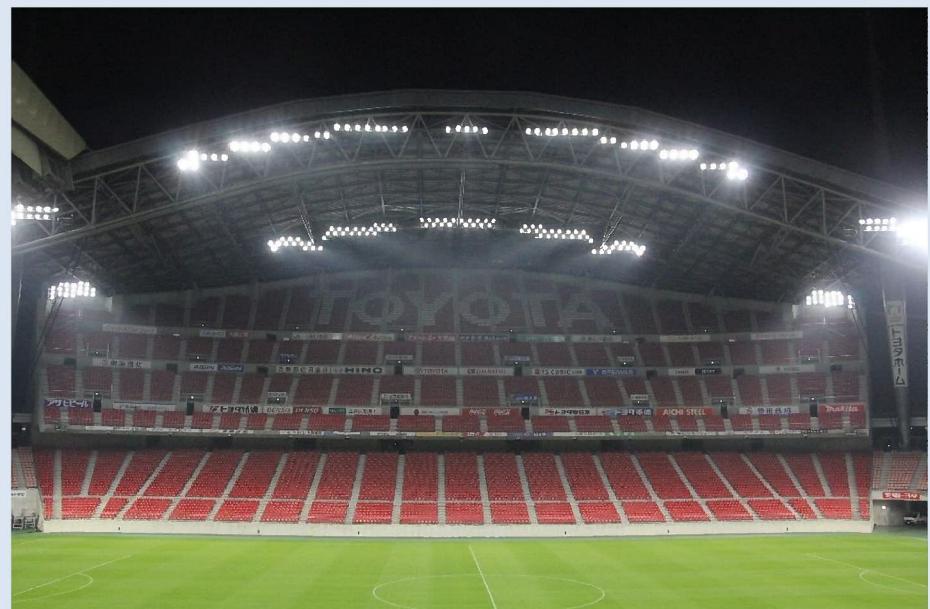
- ・公園施設長寿命化対策支援事業（豊田市）

※本事業は全額単独市費で実施した。

#### 豊田スタジアムピッチ照明設備改修



整備前



整備後

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況③

#### ■事業効果

- ・本事業の実施により、緑が不足する市街地において環境に配慮した緑の拠点となる公園が整備されることで、緑化の推進や環境負荷低減が進められるとともに地区住民や来訪者のくつろぎ・憩いの場の整備を行うことができた。

#### ■目標指標以外の事業効果（補完指標）

【効果発現に資する事業】

##### ・**吸収源対策公園緑地事業（竹元公園ほか6公園）**

拠点市街地におけるCO2吸収増加量は、1827.5kg-CO2であった

井上10丁目公園



整備前



整備後

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況④

#### ■関連する成果目標（定量的指標）

指標④：駅アクセス道路の歩道設置率

現況値（H29）0% ⇒ 目標値（R8）100%

#### 【目標達成に資する事業】

- ・（都）若林高架側道2号線
- ・（都）若林高架側道3号線
- ・（都）若林駅前線
- ・（都）若林東西線



整備前



施行中の（都）若林高架側道2号線

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況⑤

#### ■関連する成果目標（定量的指標）

指標⑤：生活道路に流入する通過交通を削減

現況値（H29）100 % ⇒ 目標値（R10）70%

#### 【目標達成に資する事業】

- ・（都）豊田刈谷線



整備前



（施行中）

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況⑥

#### ■関連する成果目標（定量的指標）

指標⑥：市民意識調査において、「公園が身近にある」と回答した人の平均値  
現況値（H29）4.56 ⇒ 目標値（R8）4.60

※市民意識調査にて1～7までの段階評価のアンケートを実施し、H29年度は平均値4.56の結果が出た。地域住民が愛着を持って利用できる公園を整備することで、指標を0.04上昇させることを目指している。

#### 【目標達成に資する事業】

- ・都市公園事業（高岡公園）



整備前



(施行中)

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況⑥

#### ■事業効果

- ・本事業にて実施した、公園整備や公共施設の緑化などのグリーンインフラ整備により、都市と緑が調和する一体的な市街地の形成という目標のもと、地域交流活発化、雨水浸透機能向上を実現することができた。

#### ■目標指標以外の事業効果（補完指標）

【効果発現に資する事業】

- ・グリーンインフラ活用型都市構築支援事業（平戸橋土地区画整理周辺地区）
- ・グリーンインフラ活用型都市構築支援事業（四郷駅周辺地区）
- ・グリーンインフラ活用型都市構築支援事業（寺部土地区画整理地区）

平戸橋土地区画整理周辺地区の公園緑地による雨水浸透量が552m<sup>3</sup>/h増加した。

なお、四郷駅周辺地区及び寺部土地区画整理地区の全体計画期間は、令和3年から令和8年であるため、事業の効果については令和8年以降に評価を行う予定である。



整備前



平戸大橋公園

整備後

## ◆今後の方針

本整備計画は、計画当初8事業（愛知県施行を除く）でスタートし、計画期間中最大18事業に拡大、最終的には15事業で完了を迎える、計画期間終了時点で7事業が次期計画へと継続した。

今後は、継続した市町村街路事業及びグリーンインフラ活用型都市構築支援事業において、それぞれが関連する名鉄三河線若林駅付近連続立体交差事業や組合区画整理事業と一体的整備を進め、鉄道駅を中心としたコンパクトで賑わい、魅力ある都市の実現を目指すと共に、土地区画整理事業地内における急速な定住人口の増加が予想される中、高い公園需要に応え得る整備の実現を目指していくものである。

## ◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	基幹事業課により実施
事後評価の実施時期	令和5年1月
公表の方法	豊田市 市街地整備課ホームページに記載 <a href="http://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/toshiseibi/1014473.html">http://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/toshiseibi/1014473.html</a>